

第1回千葉市子ども基本条例検討委員会子どもに関する施策の推進検討部会
での主な意見

1 市の方針

(1) 全ての子どもが健やかに成長でき、社会参画を図れる環境の整備

【部会での主な意見】

- ・目黒区子ども条例の子どもの参加（第12条）にある「子どもは、自分にかかわりのあることについて、意見を述べたり、仲間をつくったり、様々な活動に参加したりする権利が尊重されなければなりません。」との規定があるが、当事者である子どもの意見を反映させるのが大切だということを示すためにも、条例で同様の内容を規定する必要があるのではないか。

(2) 困難な状況に置かれた若者の自立に向けた支援

【部会での主な意見】

- ・「困難な状況に置かれた若者」はネガティブな表現で違和感を覚える。若者期特有の状況を踏まえた支援等、社会に向けて飛び立つための時期ととらえ、前向きな表現に見直すべき。
- ・若者が困難な状況にあることとは別に、むしろ内閣府の会議に若者が参加する等、若者が社会に対して意見表明等積極的に行動することについても市の方針として入れたほうがよい。
- ・学校を卒業して実社会に出る際の支援という側面も踏まえて表現するべき。
- ・特定の年齢で必ず自立しなければいけないわけではないので、多様な生き方が選択できることや、全ての若者が尊重されるということが表現できるとよい。

(3) 子育てに夢や希望を感じられるよう、妊娠・出産期から切れ目のない支援

【部会での主な意見】

- ・妊娠・出産期から切れ目のない支援は大事だが、絶対に子育てに夢や希望を感じなくてはならないわけではないので、表現を改めたほうが良い。
- ・夢や希望についてはわざわざここに文章として明記する必要はないので。「妊娠・出産期から切れ目のない支援」という表現で足りるのではないか。
- ・「妊娠・出産期から切れ目のない支援」だけでは、市の方針として、対外的にアピールすることが難しいのではないか。
- ・大事なことはすべての子どもを、その発育・成長に応じてすべてを網羅するような書き方ではないか。すべての子どもというのが条例の基本的な理念と思われる。
- ・学術的な分野等においては、子どもの側に視点を置いて、「胎児期から出産を含め

てのこども」、「プレコンセプション」、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（SRHR）」の表現が使われることがあるが、一般的な表現ではなかったり、意味が若干不適當だったりするので、条例で用いることはできない。

（４）地域におけるこどもや子育て家庭の支援者の育成・支援

【部会での主な意見】

※前回部会では発言がありませんでした。

（５）その他

【部会での主な意見】

- ・多様な人の存在に対して差別しないことや、多様な性の在り方についても、市の方針として触れる必要がある。
- ・市の方針として、妊娠・出産期から切れ目のない支援の前に、多様な価値観、尊重し合える関係性のあり方の推進というものも設けたほうがよい。

2 推進計画（既存計画の整理・統合等を含む、推進計画の策定）

【部会での主な意見】

※3において関連する発言がありました。

3 推進状況の確認・検証（こどもの権利の保障を含む、こどもに関する施策の推進状況の確認・検証）

【部会での主な意見】

- ・新たに条例を制定することを考えると、既存の組織よりも専門的な審議会等を設置して、こどもに関する施策等を確認・検証する方が対外的な理解を得やすいのではないかと。
- ・千葉県こどもプラン等の上位に条例が来るのであれば、新たな機関を立ち上げることを条例に明示することが重要である。
- ・こどもプランを事業所管が自己評価しているということについて、専門家が入っておらずしっかり調査をしているとは言い切れないのではないかと。
- ・新たな機関を立ち上げて確認・検証するにあたり、当事者であるこどもも委員として参加したほうがよいと思うが、参加するこどもによってはうまく話せないかもしれないので、子ども議会のように、こどもだけでまちのことや権利保障について話し合う場を設けてもよいのではないかと。
- ・こどもの社会参画の推進に関して、こども施策にこどもが参加することや、こどもだけの会議体の設置については、国としても推進する方針があるようなので、条例にも取り入れる必要があるのではないかと。

- こどもの声を吸い上げるシステムは確立されていない分野ではあるものの、条例の中で最も大切な部分と思われるため、新たな取組みとして条例の目玉としない
と市民にアピールできないのではないかと。
- 千葉県は若者たちの力が充実しているので、若者が子どもたちの声をサポートし
たり、自分たちも発言するような、他市町村にないユニークな会議体が作れると良
い。
- こどもが社会のことを考えるにあたり、こどもの意見を代弁する形で、有識者や経
験のある大人が関わり、こどもが自ら施策の推進状況の調査や報告書等の作成を
行うにあたりサポートする仕組みができるとよい。